

# 今こそ、芸術の力を爆発！

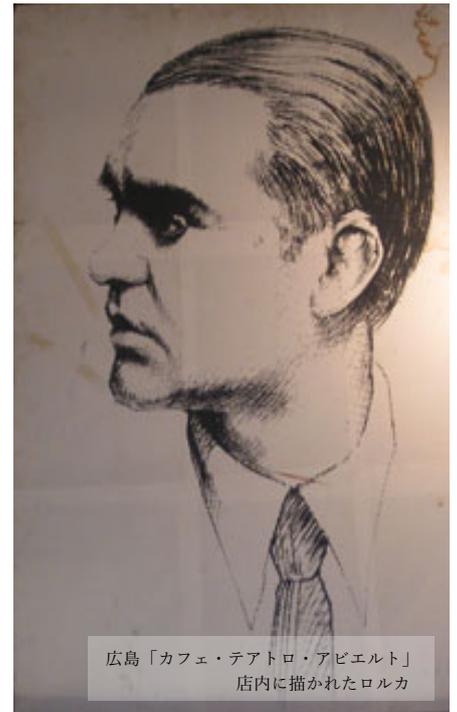
—スペインで生きた詩人ロルカの時代から、この地を見つめる—

15世紀末より世界に先駆けて植民地帝国となったスペイン。ラテンアメリカを中心に植民地支配を行いました。19世紀末、新帝国アメリカとの戦争により、スペイン本土は混乱し、1920年軍事独裁政権となるも、人民は1930年に選挙で共和国制を勝ち取ります。

この激動の20世紀初頭、サルバドール・ダリやルイス・ブニエルなど、のちにスペインを代表するアーティストの卵たちの集う場に、詩人フェデリコ・ガルシア・ロルカ(1898-1936)もいました。ニューヨークやキューバにも渡り、共和国政府誕生の年に帰国。移動劇団「ラ・バラッカ」を率いて全国各地で演劇作品を上演。芸術の力により、ひとが自由に生きることの喜びを広めました。

しかし、その活動はファシストらの脅威となり、軍事クーデターで内戦状態に突入した1936年、故郷アンダルシアのオリーブ畑で射殺されました。

今回のおしゃべりサロンでは、ロルカに詳しい太田昌国さんをお呼びして、彼の生きた時代から、私たちの生きるこの地を見つめてみたいと思います。

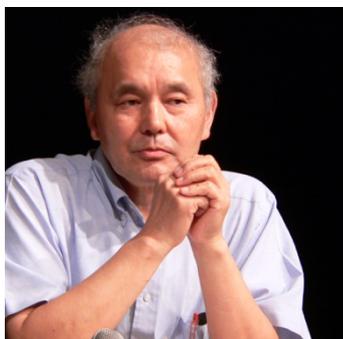


◆日 時：2019年11月9日(土)  
14:30 開場 / 15:00 開始 17:00 終了予定  
\*終了後、ささやかな交流会を予定しています。

◆場 所：メタモルホール(劇団態変アトリエ)  
大阪市東淀川区西淡路1-15-15 / 06-6320-0344

◆参加費：500円 ◆定員：40名

◆メール：osyaberi.salon@gmail.com  
\*お早めにメールでお申込みください。



## 〈ゲスト プロフィール〉

太田昌国(おおたまさくに) 1943年、北海道釧路市生まれ。東京外国語大学ロシア科卒業。1973年から76年にかけてラテンアメリカを旅する。帰国後、「シネマテーク・インディアス」として、ボリビア・ウカマウ映画集団作品の自主上映といくつかの作品の共同制作を実現。1980年代半ばから、現代企画室の編集者として、第三世界の歴史・思想・文学、世界と日本の民族問題、フランス現代思想などに関連する書籍の企画・編集を多数手がける。また執筆・講演などを通じて幅広く意見を発表し続けている。近著に『さらば! 検索サイト 太田昌国のぐるっと世界案内』(現代書館)